



研修を深め 輪を広げよう

じゃあ、読もう。

得松 昭行

2010 年は国民読書年。

国民読書年記念の講演会とセミナーが実現することになった。教育、読書、ことば、図書館、学校図書館に関心のある方に多数参加していただき成功させたい。

講師は、LLP「ことばの杜」代表、元 NHK アナウンサー、アナウンス室長の山根基世氏。

午前の講演の演題は『ことばで「私」を育てよう』（仮題）。午後は、セミナー「ことばのすばらしさを子どもたちへ」（予定）で読み聞かせや朗読のスキルアップ学習。

2010 年 8 月 9 日（月）、10：40 から別府大学（別府キャンパス）で。司書・司書補講習（文部科学大臣委嘱）の特別講演と第 7 回子どもの読書活動推進研修会と合わせて開催する。読書や「ことば」に関心のある人たちに広く呼びかけて国民読書年にふさわしい講演会にしたいものだ。日程等は後ほど紹介する。

折角の機会だから、国民読書年の意義を確かめる意味もあって、別府大学が取り組んでいることの中から「司書・司書補講習」「子どもの読書活動推進研修会」「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の概略を紹介する。

国民読書年 「上」からのかけ声に終わらせるな

活字離れに歯止めをかけ、子どもや社会人の読書活動推進を目指して 2010 年国民読書年がスタートした（2008 年 6 月、衆参両院で議決）。「じゃあ、読もう。」のキャッチフレーズやポスターを図書館などで見かけるが、まだ国民読書年を知らない人が多い。

「子どもが本を読む国に未来はかがやく」と 2000 年に「子ども読書年」。2001 年「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定。2002 年「同基本的な計画（第 1 次）」、2008 年「同基本計画（第 2 次）」を策定、子どもの読書環境整備を中心に読書活動の推進・振興を図ってきた。そして 2005 年には「文字・活字文化振興法」を制定。

大分県では国の施策を踏まえ 2004 年に「大分県子ども読書活動推進計画」、2009 年「同推進計画（第 2 次）」を策定し、「新大分県総合教育計画」（2006 年）が唱える「子どもが読書に親しむことができる環境を整備し、子どもの読書意欲の喚起と読書習慣形成の促進」を具現化するために「子どもの読書活動を総合的かつ計画的に推進する」としている。

しかし、一例を挙げれば、「学校図書館図書整備計画」（平成 19 年度から 5 カ年計画）はすべての市町村で進んでいるのか。子どもたちが生涯を通じて読書と学習の喜び・楽しみを知り、それらを習慣化するよう日常的に取り組んでいるといえるのか。図書館・学校図書館が多種多様多彩な情報を得ることができる汎用性のあるものになっているのか。読む・調べる場所に、感動と出会いの場所に、心休まる場所になっているのか。

子どもたちの読書環境が極めて貧弱なまま放置されている現状を明らかにし、反省することから国民読書年の取り組みを進めていきたいものだ。

* 文部科学大臣委嘱 司書・司書補講習

昭和 36 (1961) 年に開講した「司書・司書補講習」は、国民読書年の本年で 49 年目をむかえ、ほぼ半世紀にわたって司書の育成に携わってきたことになる。全国各地から集まってきた受講者の中には、幼児を家に残して 2 カ月以上も泊まり込みで司書資格を得る者もいる。受講者は延べで、司書 6,042 人、司書補 3,324 人を数え、各地の図書館で司書、司書補として力を発揮している者が数多くいる。

2011 年には本講習は 50 年目の記念すべき年を迎える。ますます内容を充実させ、これからの図書館を背負って立つ人材の育成に努めたいと考えている。

* 「第 7 回 子どもの読書活動推進研修会」

2003 年夏の「第 1 回子どもの読書活動推進研修会」以来、毎年研修会を重ね本年は 8 月 9 日 (月) に第 7 回研修会を開催することになっている。第 6 回までに教員、司書、学校司書、読書ボランティアなど子どもの読書に係わっている人が 1000 人を超えて参加している。

研修会で明らかになった課題。①子どもたちが自ら学ぶ力を育てる学習環境 (学校図書館) は整っているか。②豊かな心・人間性を育てる読書環境は整っているか。③メディア活用能力を育成する情報環境は整っているか。④子どものことばの力、コミュニケーション力をいかにしてつけるか。⑤司書、学校司書、司書教諭、読書ボランティアの育成・研修・協働体制はできているか。⑥資料は少なく、貧弱で、司書教諭も学校司書もない学習情報センターには程遠い学校図書館の何から手をつけていくのか。⑦地域や家庭との連携をどのように進めるか。⑧読み聞かせ、ストーリーテリング、読書のアニメーションなどのスキルアップをどのようにして図るか。⑨朝読や内読をいかにして広めるかなど。

* 「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」

2007 年度、独立行政法人教員研修センター委嘱事業「教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」(教育課題研修) に取り組んだ。「児童・生徒の国語力を高め、メディア活用能力を育成する指導力向上のための教員研修プログラム」を開発した。プログラムの特徴としては、問題解決型学習過程における児童・生徒の国語力及びメディア活用能力の育成を図り、教員の指導力向上を目指す研修プログラムを開発し、その成果を DVD、冊子にまとめ、県内小中学校教員の研修に活用することにした。詳細は略す。

引き続き 2008 年度も「開発プログラム」に取り組んだ。プログラム名「児童・生徒の国語力及びメディア活用能力を高め、自立した生涯学習者を育成するための指導力向上を目指す教員研修プログラム」を開発した。プログラムの特徴「前年度の成果と課題をふまえ、引き続き児童・生徒の国語力及びメディア活用能力の育成、教員自身の情報リテラシーの定着を図る研修プログラムを開発し、DVD、HP 等で教員の研修に供する」。DVD、冊子、HP で学校での研修に役立ててもらった。

国語力、メディア活用能力の育成について、文化審議会・読書活動小委員会主査の甲斐睦郎氏、千葉・袖ヶ浦市教育委員会の鴫田道雄氏からの専門的なアドバイスや小中学校の調べ学習の実践等満載の冊子と DVD を多くの関係者に活用していただいている。若干残部があり、無料で配っているので別府大学司書課程まで申し込みを。 Tel0977・66・9635

国民読書年記念 山根基世氏を迎えて 講演とセミナー

と き 2010年8月9日(月) 10:30~15:20
と ころ 別府大学 別府キャンパス 別府市北石垣
日 程 受 付 10:00 から
開会式 10:40~10:45
講 演 10:45~12:00
演 題 『ことばで「私」を育てよう』(仮題)
講 師 山 根 基 世 氏
LLP(有限責任事業組合)「ことばの杜」代表
昼食・休憩 12:00~13:00
セミナー 13:00~15:00
「ことばのすばらしさを子どもたちへ」(予定)
読み聞かせ 朗読など
山根さんに質問 15:00~15:20
閉 会 15:20

8月9日(月)は確定しているが、この案をもとに山根基世さんと協議して、講演(演題)やセミナーの内容、進め方などを決める。

LLP「ことばの杜」と山根さんの著書などの紹介

LLP(有限責任事業組合)とは、専門的な知識や能力をもった人や企業が力を合わせて新しい事業に取り組む共同起業を促進する制度のことで、株式会社と組合の中間のような事業体である。LLP「ことばの杜」は代表・山根基世氏で広瀬修子氏、宮本隆治氏、松平定知氏らと設立した。

力を蓄えてきたNHKの人たちがばらばらになるのではなく、定年後も結びついて、専門性を活かし、力を出していける道を開き、その受け皿づくりとして「ことばの杜」を作った。

- ・話ことば教育 講座、読み聞かせ、話し言葉、朗読
- ・日本文学の朗読 アーカイブ事業
- ・ことば教育への貢献 講演 セミナー
- ・子どもたちへのことば教育など

を中心に活動している。

子どもたちに「ことば」の美味しさを伝えたい

私が36年間のアナウンサー生活の中で味わった「ことばの喜び」を、子どもたちを初め、一人でも多くの方にお伝えしたいと思います。聴く喜び、伝える喜び、会話する喜び…そして又その喜びをもたらす「人間の声」の温もりも知ってほしい。世界には古来、数えきれないほどの優れた文学作品が遺されてきました。文字によって伝えられた素晴らしい作

品を、私たちは新たに「声」によって記録し、伝えていきたいと思っています。

たった一言が生涯残る傷になるなど、ことばには凶器のような側面があることもよく承知しています。しかしだからこそ、幸せをもたらすことばにうち満ちた、豊潤な「ことばの杜」を築きたい。万葉集に「日本（やまと）の国は言霊の幸ふ国」とあるように、「ことば」によって、幸せな世の中を実現していきたいものです。

（「ことばの杜」山根基世の抱負から）

誰かから、体験に基づく心のこもった話を聞いて感動したことはありませんか。そんな時に味わう満足感は、何かとても美味しいものを食べた後の満足感に、よく似ていると思いませんか。味わい深い「ことば」は、栄養に満ちたご馳走のように、私たちの心を満たしてくれ、身体の細胞の一つ一つを、大きく元気にしてくれます。でも今の時代、そんな「ことば」の本当の美味しさを、どれほどの人が実感しているのでしょうか。

最近、一瞬の激情にかられて、取りかえしのつかないことをしでかしたり、また「いじめ」や「いじめによる自殺」など、子どもたちの引き起こす不幸な事件が目立ちます。その背後には、自分の気持ちを「ことば」で表現できない、他の人と「ことば」で良い関係を築くことができないなど、「ことばの力」の欠落が指摘されています。

人は「ことば」を交わすことによって、心を通い合わせることができ、それはとても心地良い体験なのだ、子どもたちに知ってほしい。子どもたちに「ことば」の本当の美味しさを伝えたい。「ことば」に、人の心を動かす力があることを信じる子どもを育てることが、より良い世の中を実現していくための第一歩になると信じている。

（有限責任事業組合「ことばの杜」「ミッション」から）

「自分のことば」を育てよう

たった一言が命取りになるような閣僚の発言。ああしたことばを聞くたびに、＜口は心にあふれるものを語る＞ものだというのを改めて思う。いいことばの語り手になるには、結局、自分で自分の心を豊かに育てていくしかない。

そして、心を育ててくれるのもまた「いいことば」なのだ。これまでに会った人々から聞いたあのことば、このことばが、どれほど私を育ててくれたことだろう。

ことばは心の栄養剤。これからも、いいことばをたくさん聞いて、「自分のことば」を育て、もう少しマシな「私」になっていきたいと思っている。

（『ことばで「私」を育てる』『はじめに』から）

山根さんの著書

『ことばで「私」を育てる』（講談社） 『「ことば」ほどおいしいものはない』（講談社）
『いま、子どもが危ない 子どもを救う「言葉の力」』（読売新聞社 共著）
『女、今を一心に生きる』（三笠書房） 『これで解決！好感度を上げる話し方』（主婦の友社）
『であいの旅』（毎日新聞社） 『旅のあとさき』（文化出版局） 『ネコのあぶく』（毎日新聞社）

（とくまつ・てるゆき 別府大学非常勤講師）